



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎047-767-5030 植田 進 ☎047-487-9754

伊原 忠 ☎047-488-7207 飯川英樹 ☎080-1239-8132

ホームページへ▶



市議団ホームページ <http://jcp-yachiyo.jp/>

共産党控室メール kyousan@city.yachiyo.chiba.jp

第510号

2021年6月28日

発行

日本共産党

八千代市議会議員団

八千代市大和田新田

312-5

市庁舎建て替えにあくまでも固執する市長

6月議会の個別質問で、服部市長は市長選挙で、市庁舎整備について有権者にどのように訴えたのか問いただしました。

市長局は、「市庁舎整備について、大規模地震への対処の観点から、いつまでも延期できる事業ではなく、防災拠点としての整備の重要性から進めるべき事業」と答弁しました。

その上で、現在延期されている市庁舎整備について、コロナ収束後の凍結解除の条件についてどう考えているのか質しました。

市は、「新型コロナウイルス感染症の収束が見えてくるまでの間、計画を延期しており、現時点で事業再開の時期を答えるのは困難」と時期を明確にしませんでした。



「現在の計画を含め、再検討が必要」と答弁

服部市長は当選後の記者会見で、市庁舎整備について、「25年度をピークに人口は減少していく、将来的にある程度人口が減っていくことを前提に、今の市役所業務はだんだん変わってきているため、コンパクトでスリムな庁舎が望ましい」と述べています。

そこで、基本設計・基本計画にまで変更するのかを確認しました。市は、「基本設計後、新型コロナウイルス感染拡大により、社会環境が急速に変化しており、働き方改革、市民サービスの方法も大きく変わる可能性がある。現在の計画の見直しを含め、再検討が必要」と答弁しました。

市民の声を無視できなくなった服部市長

基本設計の変更と言及したことは、「建て替えありきでいいのか」との市民の声を無視できなくなった反映でもあり、コンパクトでスリムな庁舎が望ましいというのなら、現計画の延べ床面積18,500㎡を削減すべきであり、どこまで削減するかを目安を示すべきではないかと質問しましたが、答弁はありませんでした。

緊急防災減災事業債を活用して耐震補強に転換すべき

市の借金は、512億円 市民一人当たり25万にもなっています。現行の計画では、市庁舎建て替えに117億円、国からの補助金は3億円程度、庁舎整備基金 30億円としても、市の新たな借金は約90億円。上下水道局庁舎や倉庫の整備に20億円。さらに、給食センター東八千代調理場建設に60億円など大型事業が目白押しとなっています。

市の前期基本計画によれば、2025年度までに、市の借金を450億円以下に減らす計画なのに、逆にふくれ上がります。市の計画をこのまま進めれば、膨大な借金で、市民サービスの低下を招き、市民負担増につながることは必至と言わなければなりません。

日本共産党が、かねてより訴えているように、国の緊急防災減災事業債を活用して、耐震補強・大規模改修に転換すべきです。